

P1-034

高校生のストレス緩衝要因としての「高校生用資源評価尺度」の開発

日下 虎太郎^{1,4}、橋本 創一²、田口 禎子³、
山口 遼⁴、秋山 千枝子⁵

¹目黒学院中学・高等学校、

²東京学芸大学 特別支援教育・教育臨床サポートセンター、

³駒沢女子短期大学、

⁴東京学芸大学大学院 連合学校教育学研究科、

⁵あきやま子どもクリニック

1. 問題と目的

高校生の年代は心身の変化に伴い、ストレスを感じやすい時期であり、「ストレス対処資源」がストレス緩衝要因としての機能を有することが多くの研究で指摘されている。これに関連する尺度として、中高生を対象としていくつかの尺度が開発されているものの、学校生活に限定していたり、ソーシャルサポートのみに注目するものであったり、項目数が多く回答の仕方が煩雑であるなど、内容・実用性という点で不十分である。そこで本研究では、この結果をもとに高校生を対象として「ストレス対処資源」の個人・環境という両側面を網羅的に測定でき、かつ簡便に実施できる尺度である「高校生用資源評価尺度」を作成することを目的とする。

2. 方法

2021年2月、高等学校全日制普通科1校600名を対象に調査を行った。高校生のストレス対処資源についての事前調査結果(日下ら, 2021)をもとに17項目を、4件法(大いに当てはまる:4点、少し当てはまる:3点、あまり当てはまらない:2点、全く当てはまらない:1点)で評定を求める形式の、「高校生用資源評価尺度」を作成した。なお、この段階においては、臨床心理学を専門とする大学教員2名、大学院生3名、および高等学校教諭1名、養護教諭1名の計7名で行った。その後、ホームルームの時間に仮尺度及びストレス反応尺度を対象となる生徒に回答してもらった。調査対象校の学校長および回答者に調査の目的と手続き、回答の自由、匿名性の担保などの倫理的配慮事項について書面にて説明し、回答を以って同意を得た。なお本研究は東京学芸大学研究倫理委員会の承認を得ている(受付番号151)。

3. 結果と考察

因子分析の結果、「環境サポート資源因子: $a = .801$ 」「個人内の活力資源因子: $a = .821$ 」「個人解決スキル資源因子: $a = .719$ 」の3つの下位因子、「大人による支援」「家族による支援」「友人による支援」「居場所」「教師による支援」「自己受容感」「自己肯定感」「楽観性」「解決志向性」「粘り強さ」「柔軟な思考力」「モニタリング力」「言語的表現力」の13項目からなる尺度を作成した。また、ストレス反応尺度得点との間の比較的高い相関関係も示される($r = -.610, p < .001$)など、一定の信頼性・妥当性が確認できた。今後は、問題を抱える高校生の支援への具体的な活用方法について検討していく必要がある。